

「カラムシ繊維の採取法」

当館では、広場でカラムシを栽培しており、これを使い縄文時代の布づくり講座を行っています。今回はそのカラムシからどのように繊維を取り出すかをご紹介しますと思います。

縄文人は「編む」・「組む」という技に長けており、かごや敷物、縄や紐、編布（あんぎん）などを作っていました。縄文時代の布はタテ糸をヨコ糸に絡ませるいわゆる「もじり編み」による布で、「編み布」すなわち「編布」と呼んでいます。

「カラムシ」とはイラクサ科の多年生の草本植物で、高さ 1メートル前後に成長し、日当たりの良い草地や道端などに自生します。上高津貝塚ふるさと歴史の広場でも 4 月から 8 月頃まで見ることができます。4 月に芽を出し、6 月には繊維を採取できるまでに成長します。8 月から 9 月に小さな黄緑色の花が咲きますが、繊維の採取は花が咲く前に行います。

使用する部分はカラムシの茎で、靱皮繊維（じんぴせんい）と言われる部分です。まず、カラムシを刈り取り、葉を取り除き茎だけにします（1）。そして茎の外側の薄い皮のみ剥ぎ、内部の堅い茎は使いません（2）。薄い皮を束ね、黒くならないよう水に浸しておきます（3）。そこからさらに茶色や緑色をした表皮を剥ぎ取ります（4）。これを芋引き（おひき）と呼んでいます。外側の茶色や緑色の薄い皮を何度も剥いでいくと綺麗な白色の繊維だけになります。その後よく乾燥させ、乾燥した繊維を細く長く裂き、手で撚りをかけて糸を作ります。これで布づくりの重要な材料ができあがります。

1

カラムシの
刈り取り



2

外側の薄い皮
を剥ぐ



3

水に浸した
カラムシの
表皮



4

表皮の
剥ぎ取り

